



2000万署名で戦争法廃止へ

私の一言

2000万人署名に向けて、民医連や医療福祉生協連はもちろん国内の様々な団体や個人が奮闘中です。4月末までにさらにながらばって積み上げていきたいですね。

今回の署名は「立憲主義をとりもどす」というスローガンにもあるように、「自衛隊に賛成か反対か」とか、「日米安全保障条約に賛成か反対か」とか、「北朝鮮や中国の脅威が心配かどうか」とか、そういう小さいレベルの問題ではないことをあらためて訴えておきたいと思います。日本があたりまえに民主主義国家として、または法治国家（特に立憲主義の国家）として存続できるかという大問題であることを認識しておく必要があります。

実際安倍首相を筆頭に政権側は憲法を飛び越えての法律を無理やり成立させたくて、やはりこの戦争法にとって邪魔である憲法をいよいよ改正しようとの野望をむき出しにしています。しかし本来立憲主義において憲法より上の法律はありえないわけで、違憲の疑いの強い法律を先に国会内だけの数の力で成立させてしまっていること自体が法治国家、民主主義国家にとってはあってはならないとのです。仮にこのことを「よし」、「仕方ない」などと認めてしまったら、民主主義や法治主義（または立憲主義）等の点で中国や北朝鮮を批判する権利すら日本の国家として失いかねない問題だということをおもひながら、自民党の方々も含めてもっと認識する必要があるでしょう（もちろん自民党の憲法草案を見れば民辛

義そのものを全く理解していない、むしろ敵視している輩が作成していることも明白ですが）。

いずれにせよ、①日本は民主主義の国だ、またはそうあってほしい、②日本は法（特に憲法）に基づいて運営されている国だ、またはそうあるべきだ、③日本は独裁的なまたは反人権的な国家であってはいけない、またそうなってはいけない、④日本はそういう独裁国家をきちんと批判すべきである、これらすべて、またはどれか一つでも賛同できれば2000万人署名にも賛同できるし、自ら広げられるということです。

そういったことも学び、認識しながら2000万人署名をみんなで広げ達成し、おごった態度の政治家どもに国民の良識を見せつけてやりましょう。

（高松協同病院医局 北原 孝夫）



Wikipediaによると「戦争」とは、国家もしくはそれに準ずる集団が、自衛や利益の確保を目的に武力を行使し戦闘を起こす事で、太古から続く人類の営みの側面であり、最も原始的かつ暴力的な紛争解決手段である、とのこと。有史以来様々な発達を遂げた現代社会においてもこの「原始的」な行為は今も世界各地で繰り返されており、殺し殺し合い、恨み恨まれ、負の連鎖は世代を超えて脈々と受け継がれていきます。20世紀にはかつてない規模の世界大戦が2度起こり、尊い命が軽んじられ散っていきましました。世界中で数え切れない悲しみが生まれて、今もその痕跡は深く人々に刻まれています。

そんな20世紀でしたが、人権というものが大きく発展したのも20世紀です。戦争だけでなく人種差別問題や貧富の差など、様々な争いを乗り越えて人間としての権利はこれまでに大きく前進してきました。要するに困難な時代であればあるほどそれに反発する大きな力が生まれるのではないかとということが言いたいだけです。

私たちの香川民医連では生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。私たちの香川医療生協では患者の権利がまだ確立されていない時代から先進的に患者の権利拡大に情熱を燃やしてきました。いつの時代も何か大きなものと戦いながら弱いものの味方だったんだと思います。

そして今、平和がこんなに脅かされている時だからこそ、逆に人間としての権利を更に大きく前進させられるチャンスなのかもしれません。みんなで力を合わせてこの難局を乗り越えていきましょう。

（高松平和病院事務長室 福永智也）



県内の野党、弁護士会、学者の会、ママの会の代表を始め、約1200人が参加してコトデン瓦町駅で行われた、3/19の戦争法廃止県民集会